

# チャンピオンズカップ出走予定外国馬プロフィール

## ◆ パヴェル(PAVEL) = アメリカ

牡 4 歳・芦毛 (アメリカ産 2014 年 4 月 23 日生まれ)

父: Creative Cause = 母: Mons Venus (母の父: Maria's Mon)

馬主 : レッドム・レーシング

調教師 : レアンドロ・モラ

騎手 : マリオ・グティエレス

通算成績: 12 戦 3 勝、2 着 1 回、3 着 1 回

総獲得賞金: 約 1 億 5,480 万円

主な戦績: '18 スティーブンフォスターハンデキャップ (G1) 1 着  
'17 スマートイージョーンズステークス (G3) 1 着  
'18 パシフィッククラシック (G1) 2 着  
'17 ジョッキークラブゴールドカップ (G1) 3 着

パヴェルはケンタッキー州産で、元同州知事のブレルトン・ジョーンズ氏とウインスターファームの共同生産馬です。2014 年 11 月にキーンランドの競り市に上場され、マクマホン&ヒル・ブラッドストック社が 9 万ドル(当時約 940 万円)で購入。翌年 9 月にキーンランドの 1 歳馬セールに再度上場されますが買い手はつかず、その後ポール・レッドム氏が購入して現在の馬主となっています。

本馬の父のクリエイティブコースはストームキャット系ジャイアンツコースウエイの直仔で、現役時は 2 歳 G1 ノーフォークステークスを含む 10 戦 4 勝。種牡馬としては本馬のほかに重賞馬を 3 頭輩出しており、日本でも同馬を父に持つマジカルスペルがダート 1,600~1,800m で 4 勝を挙げています。母のモンズヴィーナスはカナダ産馬で不出走のまま繁殖に上がり、本馬のほかに、重賞を 3 勝し芝やダートの G1 で 3 着以内に入る好走を見せたカラコルタド(2007 年産、父キャットドリームズ)を出しました。母の父マライアズモンは 2 歳時に G1 を 2 勝しましたが、血統を遡ると 4 代父には 4 戦全勝のレイズアネイティブがいます。

パヴェルは 2003 年のジャパンカップダートをフリートストリートダンサーで制したダグ・オニール厩舎所属となりますが、2 歳時に球節の骨片を除去するために調教を中断したこともあり、デビューは 3 冠戦線が終了した昨年 7 月の未勝利戦(サンタアニタパーク、ダ 1,300m)になりました。9 頭立ての 5 番人気で初戦を迎えたパヴェルですが、キャリア全戦で手綱を取っているマリオ・グティエレス騎手を背に、早め先頭から直線では後続を引き離して 4 馬身半差で鮮烈なデビューを飾りました。

その後は東海岸に渡り、4 週後の重賞初挑戦となるジムダンディステークス(サラトガ、G2、ダ 1,800m)に臨みます。ここは同世代のケンタッキーダービー馬オールウェイズドリーミング、プリークネスステークス優勝馬クラウドコンピューティングに続く 5 頭立ての 3 番人気でしたが、直線で伸びず 5 馬身 1/4 差の 4 着まで。しかし、次走、9 月にパークスレーシングで行われたスマートイージョーンズステークス(G3、ダ 1,700m)で早くも重賞タイトルを手に入れます。ここも 3 番人気でしたが、6 頭立ての

3番手から直線入り口で先頭に立つと後続に6馬身差をつける圧勝でした。さらに、初G1となる10月のジョッキークラブゴールドカップ(ベルモントパーク、ダ2,000m)に3番人気で出走し、7頭立ての2番手追走から直線でも粘りを見せますが、ゴール前で一つ着順を落として1馬身3/4差の3着でした。

こうして西海岸に戻り、11月のブリーダーズカップクラシック(デルマー、G1、ダ2,000m)でダート界の最高峰に挑みます。しかし、相手が強化されたここは11頭立ての8番人気と伏兵の域を出ず、6番手から徐々に後退して勝馬から30馬身以上離れた10着で終わりました。昨年最終戦は12月のマリブステークス(サンタアニタパーク、米G1、ダ1,400m)。同世代との争いとなったここは1番人気に推され、初のG1タイトルを期待されましたが、9頭ほぼ一団の中位を進み、直線に入ってから馬群を縫って進出を図るものの伸びを欠いて5馬身半差の4着となり、3歳シーズンは6戦2勝、3着1回で幕を閉じました。

4歳の今年は2月のサンパスカステークス(サンタアニタパーク、G2、ダ1,800m)で始動します。ここも1番人気に支持され、好位の4番手から直線を迎えたもののなかなか前が開かず、最後は外に持ち出しますが、9頭立ての4着(4馬身半差)まで。そして、初の海外遠征となるドバイワールドカップ(メイダン、G1、ダ2,000m)へ。日本での発売で9番人気のここは10頭立ての外を3~4番手で進み、直線では勝ったサンダースノーに最後は7馬身以上離れたものの、2着からはクビ+1馬身3/4差の4着でした。

帰国後は5月下旬にサンタアニタパークのゴールドカップ(G1、ダ2,000m)へ向かいますが、4番人気のここは6頭立ての4番手のまま、上位3頭との差を詰めることができず、10馬身近い4着敗退。これで4戦連続4着となり、しばらく勝星から遠ざかりましたが、続く6月のステイブンフォスターハンデキャップ(G1、ダ1,800m)で見事に巻き返します。今年のブリーダーズカップと同じ舞台のチャーチルダウンズにて9頭立てで行われたハンデ戦で、パヴェルは4番目に重い53kgを背負い、3番人気の支持でした。レースは4番手の外から、3コーナーで進出を開始すると直線入り口で早々に先頭に立ち、最後は流す余裕を見せて3馬身3/4差の勝利。7戦ぶりの勝利を初のG1タイトルで祝いました。

この後は、2か月の間隔を取って8月のパシフィッククラシック(デルマー、ダ2,000m)でG1連勝を狙います。断然人気のアクセラレイトを前に見ながら7頭立ての4番手を進み、3コーナー過ぎで先頭に躍り出た同馬を懸命に追いますが、直線では離される一方。後続に3馬身3/4差をつける2着でG1馬としての面目を何とか保ちましたが、アクセラレイトには12馬身半もの差をつけられました。さらに2か月半置いて、G1タイトルを手にしたチャーチルダウンズに戻り、2度目のブリーダーズカップクラシックに臨みます。前走で大差をつけられたこともあってか、14頭立ての11番人気の評価にとどまり、道中は6~7番手から外を回って直線を向きますが、最後は力尽きて9馬身差の10着でした。

このレースの後、管理調教師がダグ・オニール師から、同師の右腕であるレアンドロ・モラ氏に変更されました。ブリーダーズカップで2度の10着を記録した以外は全て4着以内と堅実な成績を残しており、ドバイでは日本のアウオーディーに2馬身弱先着しています。

## チャンピオンズカップ出走予定外国馬関係者プロフィール

### ■ パヴェル (PAVEL)

#### ● 馬主：レッドダム・レーシング (Reddam Racing LLC)

レッドダム・レーシングはジョン・ポール・レッドダム氏を主体とする馬主名義。同氏は南カリフォルニア大学で博士号を取得後、カリフォルニア州立大学で教授を務めた。1995年に不動産担保ローン会社を設立し、99年にゼネラルモーターズに売却。現在は業界トップのファイナンス会社キャッシュコール社(CashCall)の社長を務める。

高校時代の友人の影響で競馬ファンとなり、1998年に馬主になると、これまでに2012年のケンタッキーダービーとプリークネスステークスを制したアイルハヴアナザー、2015年のブリーダーズカップジュベナイルおよび2016年のケンタッキーダービーを勝ったナイキストなど、本馬を含めてG1馬を複数頭所有した。

#### ● 調教師：レアンドロ・モラ (Leandro Mora)

1959年1月9日生まれ、メキシコ出身。アメリカに移住後、1977年からデルマー競馬場でレースや調教後に馬の体温を下げるために馬を曳いて歩く“ホット・ウォーカー”としてキャリアをスタートさせる。2001年からはダグ・オニール厩舎で働き、同師の右腕として、数多くのG1を制し、ナイキストや2005年のジャパンカップダートにも出走(11着)したラヴァマンらの名馬に携わる。

オニール調教師のアシスタントを務める傍ら、自身の名義でも調教師として馬を出走させており、2012年にハンサムマイクでペンシルベニアダービー(G2)、2014年にゴールデンセンツでブリーダーズカップダートマイル(G1)を優勝。

なお、ラヴァマンで臨んだ2005年のジャパンカップダートではオニール厩舎のスタッフとして来日している。

#### ● 騎手：マリオ・グティエレス (Mario Gutierrez)

1986年9月19日生まれ、メキシコ出身。父は元騎手で、クォーターホースで乗馬を始める。2006年にカナダに移住し、バンクーバーのヘイスティンクス競馬場を拠点に見習騎手となる。2007年にブリティッシュコロンビアプレミアズハンデキャップで重賞を初制覇すると、同年から2年連続でヘイスティンクスのリーディングタイトルを獲得。

冬期間は南カリフォルニアで騎乗し、エージェントを介してアメリカの調教師から騎乗依頼が入るようになると、ダグ・オニール調教師が管理するアイルハヴアナザーとのコンビで2012年にケンタッキーダービー、プリークネスステークスの2冠を制した。2016年にはナイキストで再びケンタッキーダービーを制覇。翌年10月には北米通算1,000勝を達成した。

近年はサンタアニタパーク競馬場をはじめとした南カリフォルニア地区を中心に騎乗しており、今年11月21日現在、本馬によるスティーブンフォスターハンデキャップやゲームウィナーによるデル

マーフューチュリティの G1・2 勝を含む 499 戦 68 勝、454 万 3,182 ドル(約 5 億 1,140 万円)で獲得賞金順の北米リーディングで 41 位。